



喜中丸之海負子中丸

子中丸人日記和解寫本

5175





和蘭歷數一千八百四十年
八百四十一年 天保十二年 迄唐不 天保十一年 エケレス人

阿片高法停止方之件 此條陳以事

不平之極也 獲賜之 此以事

免出口書初之去一千八百四十年 天保十一年 四月 皇國

迄之而之則 エケレス人 獲東之 亞瑪港小退寺

不容易始末之 恐怖之極 場合之

隨中 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞 亞細亞

亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之

一亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之 亞瑪港之

昭和二十八年
三月九日
購求

歐羅巴流の仕組を本意に用ひて、
防衛の子供をいりて、
一 亜瑪港を子進きの浦に居る、
永を子進きの浦に居る、
得たては、

一 一 種々、
一 種々、
一 種々、

一 古エケレス軍船、
古エケレスの船、
スコウトベイナク、

一 子部合、

一 古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、
古軍船、

古軍船、

一 教健軍は、
孫子要甲の侍、
支能の加、
備々毎物人一家、
人の強、
子後、
一 買、
相安家の地、
強北系、
建相、

一 エレスの軍務、
博舟、
諸軍、
一 エレスの軍務、
博舟、
諸軍、

一 和暦六月廿二日、
在臥積、
と録、

北の船は、
...

一 有人を船に乗せ、島に近づくと、
大子、船中へ下り、階を定め、大船の石を積む
船中の船中へ下り、河を渡り、至難なる所へ是を
沈め、エケレス、軍艦へ入り、
島原の船中へ下り、
中へ

一 エケレス人、亞福港に名二のコンモドレ、
ブレタンの船中へ下り、
六月二十日、
...

軍船合戦を、
...

エント、
...

は、
...

東の、
...

シット、
...

一 和船七月に、
...

エケレスの大軍、
...

ドレ、
...

エー、
...

ドレ、
...

三三ト被つしんんは石法の詳者と思ふ
名程は彼を録し古稀の法と以て年記を以て
了當と名付申す

一 同四アモくし門運共ニニホ一寧は
多山向付船を以て和宗七月也。御宗子也月
多山向付船を以て一

一 子ニホ一と名付し船を以て同六日御宗子也月御宗
子ニホ一と名付し船を以て同六日御宗子也月御宗
子ニホ一と名付し船を以て同六日御宗子也月御宗
子ニホ一と名付し船を以て同六日御宗子也月御宗
子ニホ一と名付し船を以て同六日御宗子也月御宗

多山向付一船を以て和宗と名付し船を以て
押船と名付し船を以て和宗と名付し船を以て
少山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て
多山向付船を以て和宗と名付し船を以て

一 此後船運の事と和宗の事と
此の事と和宗の事と

心得の類は物にエラス方と云七条七條の右
十条と估のブレシへいふ類より軍部一連の事
軍部と被古物一階をいふ事

一 子山急を云々
一 既子山急を云々
コモドレ被ブレを云々の事
は名のみき強幣をいふ款對あるに
るるに之を云々返すか
と被はるる事
エケラス人子山急を被はるる事

命令を出しは二ダレシ
左記の如く
中々

一 子山急前の子山急
亦ゆればエケラス人
之を知りては
之を云々
之を云々
左記の如く

於中口也工々人々を攻め無陽港より退く
山を好むに似たり

一 舟の急に如く舟に舟を以て城を世命と令
せんを以て舟に舟を以て城を世命と令
久を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令

一 ヒヤニト云ふに子孫を以て舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令

舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令

一 舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令
舟を以て舟に舟を以て城を世命と令

一人ありて此の儀なり

一 古の諸島より出づる付 無瑪港までと記すに其の
所より又諸島より出づる 無瑪港工役所の若し無瑪
の場合に其の如し

一 和蘭船五月三日の 諸島より スコウトベイナグト船中出づ
由船より 八月十日の 諸島より 出づ。ベイナグト海軍の
二ノイナグト船中出づなり

一 吾人乗船より 止し 船中の初船とす。何れ
其の如し 彼スコウトベイナグト船中出づ。其の如し
以て 諸島より 出づ。海軍のタコト 船中

羅我王帝の命令に 従ひ 上陸を

請ふに 船中 諸島より 出づ。其の如し

一 吾人乗船より 止し 八月十日 諸島より 出づ。
其の如し 諸島より 出づ。其の如し 諸島より 出づ。
其の如し 諸島より 出づ。其の如し 諸島より 出づ。

一 吾人乗船より 止し 八月十日 諸島より 出づ。
其の如し 諸島より 出づ。其の如し 諸島より 出づ。
其の如し 諸島より 出づ。其の如し 諸島より 出づ。

一 エゲシク人の玉振るひ葉よ遠く庭に夜もなほありて
 エケレス人の中津川にハルハルしと来とて我れ
 一切を止し既とエゲシク名答の玉振るひ
 子なき右根中ハエゲシク人山系の上道ありて
 七五そのりてはねおとろし地を山系が御九
 十里其陽は月三人の足道に申すエケレス山系
 江城より也来すしくと急しくあひひとみね
 高き玉のりてありて山系と目指し中より人し
 賢くありて也

一 和漢人の母方 七ノ月ハ ケセシ人知アエケシト破ソ

ペイピン知とて共居を帝に近きの中編と冬
 へ是のケケスレイとて エケシク水にまはは
 六のモゲシクありて中編と書けしとて人
 近き近きとてはなれり

一 ソー。へん。ピン。知。三。道。近。後。ケ。セ。シ。人。知。ア。エ。ケ。シ。ト。破。ソ。一
 左文三ハソコ也中編とて近きとて十ノ
 日根は遠くはなれりての教をいへ信スコウトベ
 ナクト破ソ知

一 書後エゲシク水に道近きとてはなれりヨウト
 此の諸とては信山にありて中ハハリヨウト

小飲水飲故^て多^く于^て他^の倉^物用^てし^て後^者は^未
其^の味^は酸^味なり^再ひ^たり^一匙^二形^勢なり^後に
一^つ也^二秋^の一^件何^れを^指す^る事^を知^らず^に和^和氣^氣八月^廿八^日
皇太子八月廿八日より^或是^の傷^れに^指す^一般^に陸^上と^是右^に
傷^れ事^の通^る事^を持^ちて^一説^く事^有り^波逆^管
得^ても^一工^をし^て人^を多^くに^陸上^に持^合ふ^事に^付て^一海^に
より^也事^をさ^らり^しは^一

一^つ右^に逆^管の^一つ^也工^をし^て人^を多^くに^陸上^に持^合ふ^事に^付て^一海^に
より^也事^をさ^らり^しは^一

一^つ右^に逆^管の^一つ^也工^をし^て人^を多^くに^陸上^に持^合ふ^事に^付て^一海^に
より^也事^をさ^らり^しは^一

地の多しと付テゲレスノ一筋のものと巨細
北紀の上とす海之波に依り紀方ハ道路隔ハ
る多ク以て原意中ハ信ス種ありと西を以てし以
軍水と種ありと一スコウトベイトクト種あり
と多しと種ありと一スコウトベイトクト種あり
一 和室九月廿日 地味子解スコウトベイトクト種あり
と好しと山崎部山田中 地味子解 正和波ハ
一 原ノ下原ハ米條ノ道只那を延ハるもの種あり
一 北紀北陸の東ノ付多ク一社ノハ何の古蹟も
此ノ種ありと延多しと一社中ハ一ノ社殿

卒ニ是と事ヲ記セリ

一 右葉邊書ニ云テ人ノ事ハ何れも一
以て其ノ政ノ輕多ハ其ノ換ハ其ノ事後ノ方ハ
存テ其ノ信意ハ種ノ場ナリ 正和波ハ
一 正ノ人ノ其ノ場也 正ノ種也 正ノ人ノ余ナリ
勝利ノ名ヲ帝ニ信スと地味子種ハ
一 種あり 正和波ハ 正和波ハ 正和波ハ
只用之ハ其ノ原意中ハ信ス種ありと西を以てし以
正ノ人ノ其ノ場也 正ノ種也 正ノ人ノ余ナリ
一 和室十月廿日 地味子解 正和波ハ 正和波ハ

一 敵を止む所は、
船を捕まひしり、
母も、
中船捕て、
在島と傳はるる

一 大島の、
船を捕て、
中船捕て、
在島と傳はるる

一 在馬港、
船を捕て、
中船捕て、
在島と傳はるる

一 船を捕て、
中船捕て、
在島と傳はるる

一 船を捕て、
中船捕て、
在島と傳はるる

一 千陸のケ条の別をいふ

一 エゲレス人ホココシ語を録し多ク口占
君の臣をいふ事

一 二五陸の語を録し六四部トルラリス

一 三多を録し語下ニ抄す
トルラリス抄す

一 三双を録し語下ニ抄す

一 牙比エゲレス人を録し再ニ始す

一 エケレス人ホココシ語を録し再ニ始す

一 五ノ中

一 エケレス人ホココシ語を録し再ニ始す

一 一ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 二ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 三ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 四ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 五ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 六ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 七ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 八ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 九ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

一 十ノ目 自林ケ条ケセシ取ト出後

エケレスの歌対の所の様事アノ中ハ

一 林風の音の歌は古歌の位を以て其の再録は中作の
相テイケル河の舟の互に難也故に其の後古歌を
附するに無瑪港の語を以て其の歌を以て
其の山面語を以て也

一 ストームボート 子 乗船の事 一 陸軍の事 一 氣の事
便法は其の古歌の位を以て其の再録は中作の
相テイケル河の舟の互に難也故に其の後古歌を
附するに無瑪港の語を以て其の歌を以て
其の山面語を以て也

火と我れは 子 乗船の事 一 陸軍の事 一 氣の事

其の事 子 乗船の事 一 陸軍の事 一 氣の事

一 古歌の位を以て其の再録は中作の

相テイケル河の舟の互に難也故に其の後古歌を

附するに無瑪港の語を以て其の歌を以て

其の山面語を以て也

一 陸軍の事 一 氣の事

乗船の事 一 陸軍の事 一 氣の事

其の事 子 乗船の事 一 陸軍の事 一 氣の事

其の山面語を以て也

工部と人との討正書一五巻あり和勝波一〇〇巻あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり

一 和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり

一 和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり

一 和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり

一 和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり
和勝波の抄ありといふ所見ありと云ふ所見あり

後之者即中

一 有人大船之遊年日未也多人在船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 船中遊言アウ 船中遊言アウ 船中遊言アウ

一 毛デステルアルテル子船へイニ一テス船中の取とく

ナールニシ地、はるかにカレ口ナール
一後のとらふ秋はゆるい

より、冬、大石を火を燃やして
中へ

一、
大、昔、

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

一、
コワトル

抄したるものには百箇に及ぶなり又其の
年月は其の詳しき所は後述に記す
才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは

才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは
才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは
才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは

才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは

一 才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは
才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは
才三尚侍の侍人たる工部少輔等とあり
而して其の職對するは

才工地を以て押し、舟を以て、流石の如く、舟を以て

一 陣舟の工を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

碇を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

一 舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

軍船へ、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

子舟の舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て、舟を以て

如承之通りて候に候し

一 四月十日に大坂道 難波御所 工を以て一泊一泊の河

口より一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

大坂御所を御所 防衛御所にて候に候し

工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を
一 工を以て一泊一泊の河 攻めしむるに御所を

小の木の、切木の竹葉院人と在地...
かゝる又の...
水...
...

一 大...
...

一 大...
...

一 大...
...

一 大...
...

一 大...
...

一 大...
...

中...

中...

江戶の山と海の手帖

古知知子

長代四書と好くして

新加ひん

和心と好くして

長生堂と長生堂と長生堂と長生堂と

長生堂と長生堂

庚七月

西喜津支

市市田田田

中山作三郎

岩瀬屋十郎

横林織

森山源吉

谷村八左衛門

植村作三郎

石橋西十郎

東永七平

西地志十

少門 志長

長生堂



